



2020年3月期決算・2021年3月期計画 事業戦略説明会

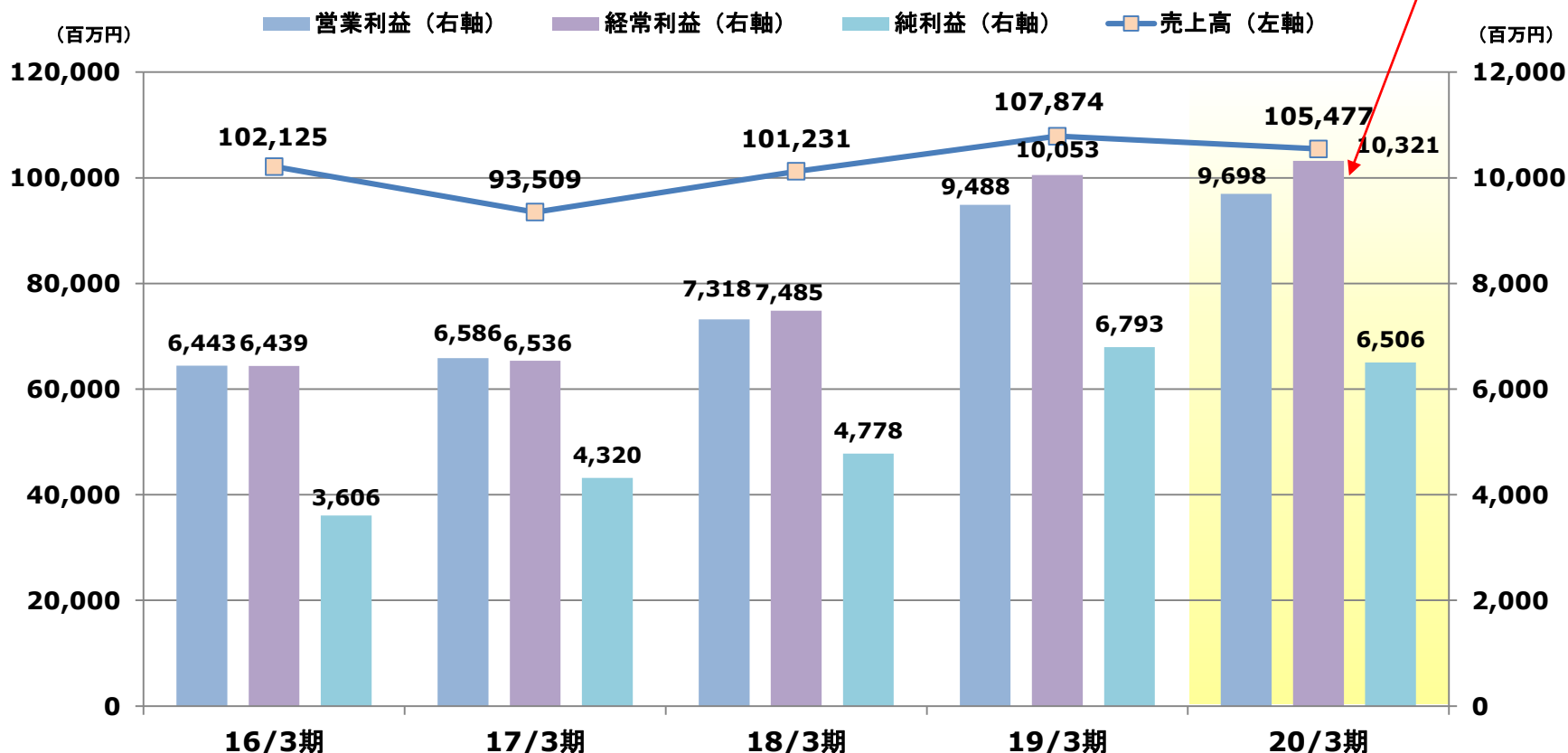
2020年6月4日

2020年3月期 業績

業績推移(16/3期~20/3期)

- 売上高は過去最高を記録した前期に次ぐ過去2番目の高水準
- 営業利益、経常利益は8期連続で過去最高を更新

売上高および営業利益、経常利益、当期純利益の推移



営業・経常利益
8期連続で
最高を更新

2020年3月期 概況

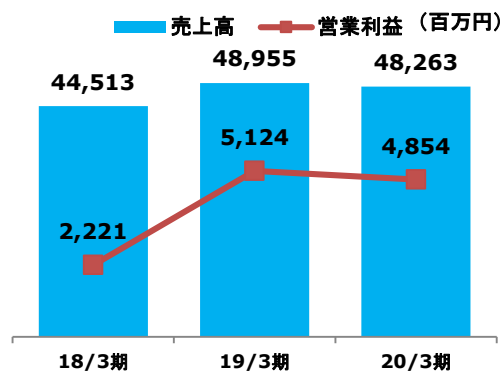
- 売上高、営業利益、経常利益は計画値を上回った
- 海外売上高は過去最高を更新

(百万円)	19/3期		20/3期		増減率 (%)	増減額	2020年3月 計画	達成率 (%)	差異
		構成比 (%)		構成比 (%)					
売上高	107,874	—	105,477	—	▲2.2	▲2,397	105,000	100.5	477
営業利益	9,488	8.8	9,698	9.2	2.2	210	9,600	102.2	98
経常利益	10,053	9.3	10,321	9.8	2.7	268	10,200	101.2	121
当期純利益	6,793	6.3	6,506	6.2	▲4.2	▲287	6,800	95.7	▲294
一株利益(円)	297.10	—	276.14	—	—	—	—	—	—
海外売上高	26,915	25.0	27,316	25.9	—	401	—	—	—

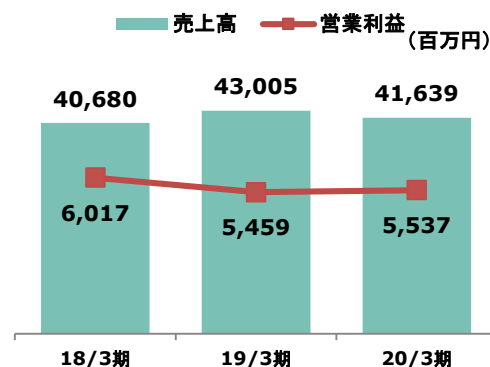
	19/3期	20/3期
U S \$ / 円	111円	109円
ユ ー ロ / 円	129円	121円
ナフサ(円/KL)	50,000円	43,000円

セグメント別売上高・営業利益比較

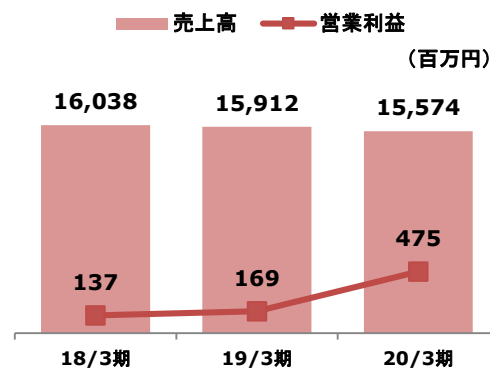
基礎化学品



機能化学品



住宅設備ほか



下期からの景気減速の影響を受け減収減益

- クロール・アルカリ
上期は販売堅調も、下期は景気減速の影響を受け減収減益
- エピクロルヒドリン
国内向け、アジア向けで販売数量が堅調に推移

アリルエーテル類、医薬品関連の販売増が増益に寄与

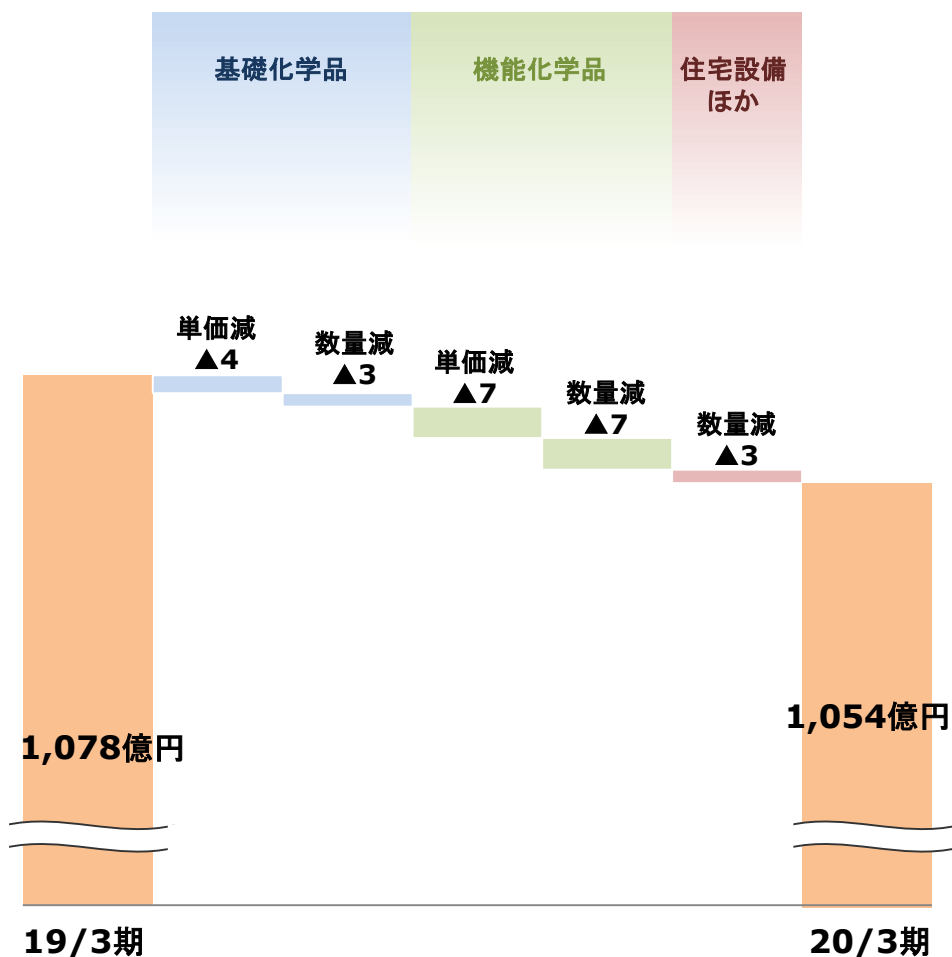
- アリルエーテル類
シランカップリング剤用途で販売が拡大
- 合成樹脂
UVインキ顧客での生産調整などの影響を受けるも、高感度UVインキ向けの販売拡大により前年並みを維持
- 合成ゴム
アクリルゴムは国内外で新規採用が拡大
エピクロルヒドリンゴムは自動車生産台数減少および一部で新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け販売減
- 医薬品関連
医薬品精製材料は欧米での需要が拡大
医薬品原薬・中間体も国内外で販売が好調
- 商社関連
液晶および電子材料関連の販売数量が減少

収益性改善の取り組みを強化

- 生活関連商品の販売、エンジニアリングが堅調

売上高要因分析

セグメント別 要因分析



主要製品別 増減分析

基礎化学品

▲7(億円)

製品	増減額(億円)
クロール・アルカリ	▲7
エピクロルヒドリン(EP)	+2
その他	▲2

機能化学品

▲14(億円)

製品	増減額(億円)
ア릴エーテル類	+6
合成樹脂・合成ゴム ※1	▲6
医薬品関連 ※2	+7
電子材料関連	▲10
その他	▲11

※1 合成樹脂・合成ゴム: ダップ樹脂、エピクロルヒドリンゴム等

※2 医薬品関連: 医薬品原薬・中間体、クロマト(医薬品精製材料)等

住宅設備ほか

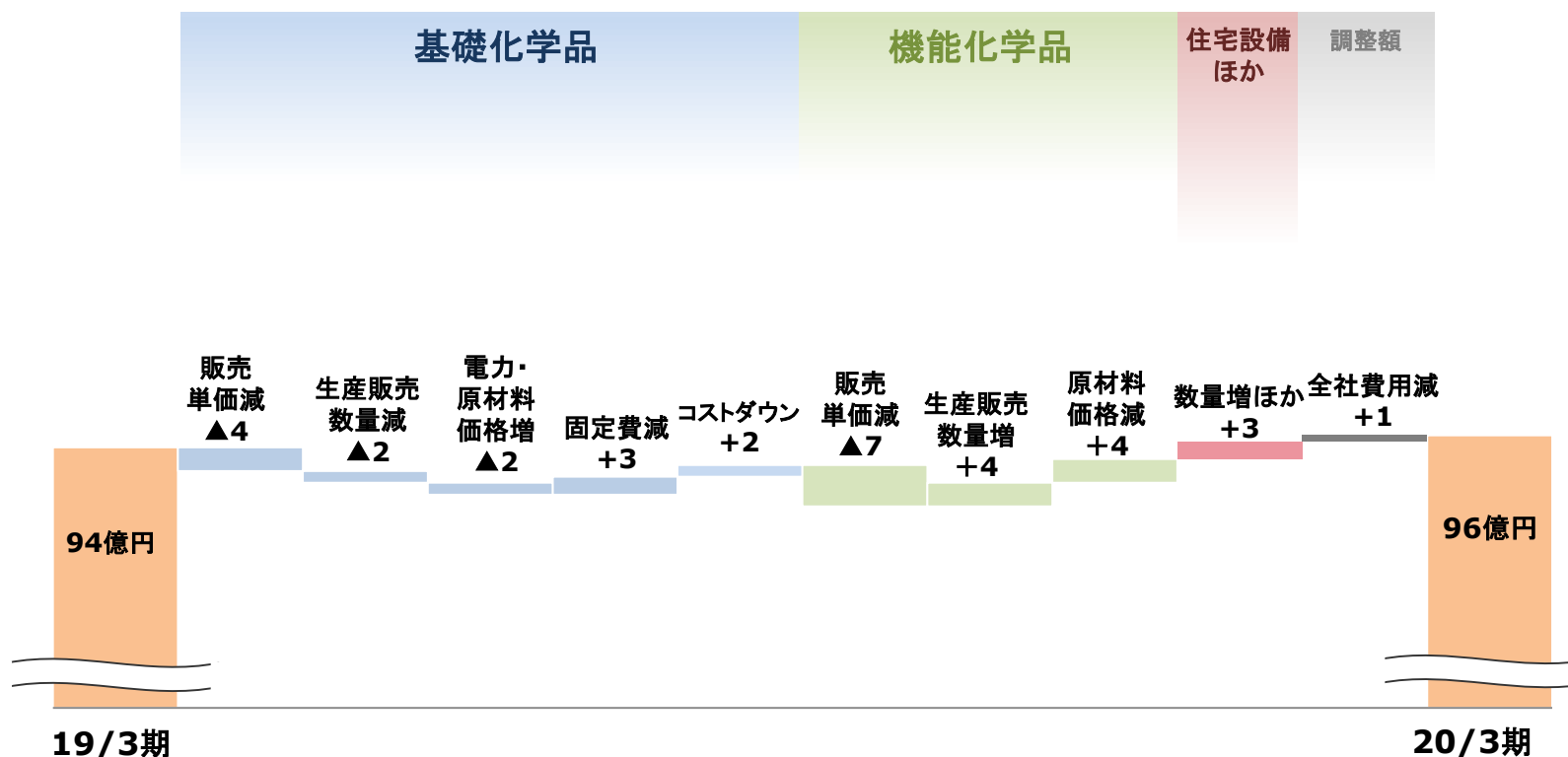
▲3(億円)

製品	増減額(億円)
建材ほか	▲3

営業利益要因分析

- 基礎化学品は期後半の需要減と原材料高の影響を受けた
- 機能化学品は医薬品関連等の高付加価値製品の販売数量増が寄与

セグメント別 要因分析



貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書

- 安定的な営業キャッシュ・フローの創出、機動的な戦略投資に向けた財務基盤を強化
- R&I信用格付BBB⁺からA⁻へ格上げ(2019年10月)

(百万円)	18/3期	19/3期	20/3期	前期比
総資産	115,020	112,661	110,851	▲1,810
純資産	60,953	64,548	69,121	4,573
自己資本比率	53.0%	57.3%	62.4%	5.1%
有利子負債	23,504	19,231	17,767	▲1,464

(百万円)	18/3期	19/3期	20/3期	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,757	9,854	10,336	482
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲7,398	▲4,542	▲4,092	450
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,097	▲5,003	▲1,677	3,326
現金および現金同等物	23,993	24,376	28,899	4,523

2021年3月期 事業計画

当社を取り巻く事業環境

新型コロナウイルスの世界的感染拡大により経済活動全体が悪化

- ◆ 3月以降の世界的感染拡大による自動車を中心とした需要の大幅な減少、グローバル規模での生産活動停止の影響が今期より顕在化
- ◆ 外出や移動の制限による営業活動の縮小および研究活動の遅延
- ◆ 新型コロナウイルスの緊急対策本部を設置し、感染症対策への積極的な取り組みを推進

当社の主な対策・取り組み

経営戦略

- ◆ 中長期的な戦略や方針は継続
- ◆ 財務的リスクの縮小に注力
 - ✓ 現預金等の流動性を確保
 - ✓ 在庫管理の適正化
 - ✓ 債権管理の強化
 - ✓ 稼働低下に対応した固定費の削減
(コストダウンプロジェクトチーム発足)

業務運営

- ◆ コロナウイルス感染症対策本部下で対策を徹底
 - ✓ 在宅勤務体制の整備
 - ✓ 時差出勤・自動車通勤の推奨
 - ✓ 工場運転・整備員の感染防止対策

社会貢献

- ◆ 自治体への寄付
(次亜塩素酸ソーダ、空間除菌剤「クロサイド」)
- ◆ 消毒剤、空間除菌剤等の供給

2021年3月期 事業計画

- 上半期を中心に製品全般にわたって新型コロナウイルスの影響を織り込む
- 期後半からGNT製品群を中心とした需要回復を想定

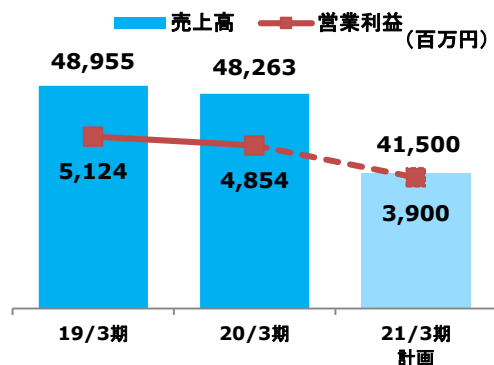
(百万円)	20/3期		21/3期計画		増減率(%)	増減額
		構成比(%)		構成比(%)		
売上高	105,477	—	96,000	—	▲9.0	▲9,477
営業利益	9,698	9.2	8,000	8.3	▲17.5	▲1,698
経常利益	10,321	9.8	8,400	8.8	▲18.6	▲1,921
当期純利益	6,506	6.2	5,700	5.9	▲12.4	▲806
一株利益(円)	276.14	—	240.22	—	—	—

海外売上高(%)	25.9	26.5
----------	------	------

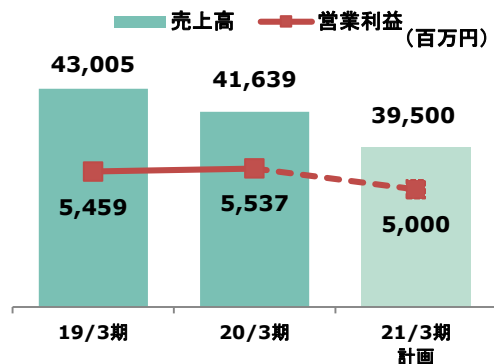
【前提条件】 2021年3月期 想定	
US\$/円	108円
ユーロ/円	120円
ナフサ(円/KL)	30,000円

セグメント別売上高・営業利益計画

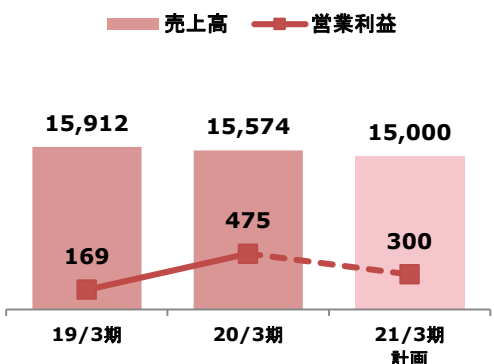
基礎化学品



機能化学品



住宅設備ほか



事業計画達成に向けた取り組み

- クロール・アルカリ
 - 地場密着営業による顧客獲得を継続
 - 消毒剤、除菌剤原料の次亜塩素酸ソーダ、亜塩素酸ソーダの供給を拡充
- エピクロルヒドリン
 - 需要動向に即応した効率的生産体制へ
- 生産コストダウン
 - AC収率向上 など
- 合成樹脂
 - 高感度UVインキ用途拡大のための海外技術支援の強化
 - ノンフタレート型アリル樹脂の欧州への採用促進
- 合成ゴム
 - アクリルゴムの採用拡大、超高耐熱グレードの上市促進
 - エピクロルヒドリンゴムの新規用途開発の強化、新興国での自動車燃料系ホース向け採用拡大
 - ゴムコンパウンド事業の拡大
- アリルエーテル類
 - 世界市場での圧倒的シェアの確立、新規用途市場の開拓
- 医薬品関連
 - 医薬品精製材料の新興国市場での拡販ならびに欧米市場での販売強化によるシェアアップ
 - 医薬品原薬・中間体の需要増加に対応した生産体制の強化
 - 高薬理活性医薬品の開発案件獲得
- 生活関連、建材
 - 利益率の高い商品へシフト
 - 空間除菌剤「クロサイドプラスキューブ」や衛生関連商品の企画・販売を強化

新型コロナウイルスによる事業計画への影響

新型コロナウイルスによる主な影響

■ 基礎化学品：期を通じて影響が残る

クロール・アルカリ	・かせいソーダへの影響は2Qから3Qを底に4Qより収束へ向かい、来期正常化 ・消毒剤や除菌商品の需要増が通期で持続
エピクロルヒドリン	・汎用エポキシ樹脂向けで世界的な需要の大幅減も、4Qより一部需要が回復

■ 機能化学品：下期より早期需要回復

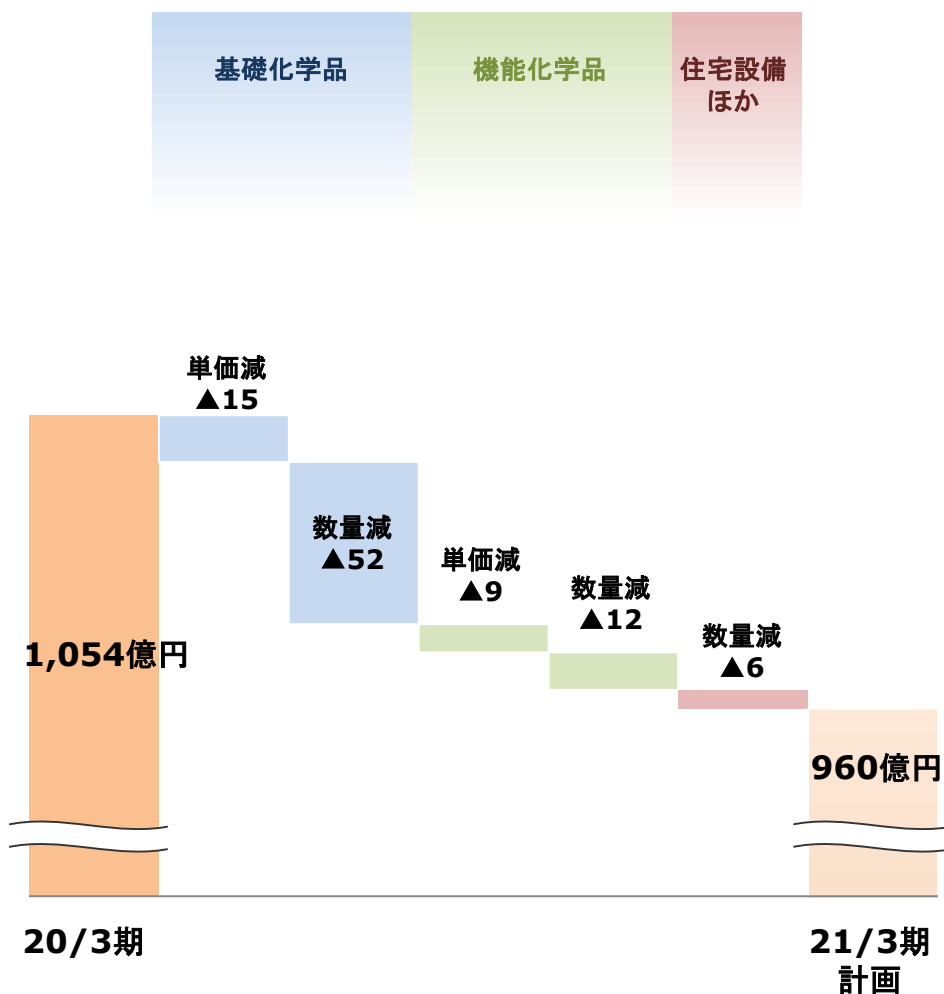
合成樹脂	・インキ、塗料、建材、電子材料向け成形材料等の末端消費需要は下期より正常化
合成ゴム	・世界の自動車生産台数が前年比▲20%程度で減少、年明けから需要回復
アリルエーテル類	・地域、用途別で影響度、回復時期は異なるが、アジア市場を中心に下期に正常化
医薬品関連	・医薬品精製材料の需要は底堅く、事業全体としてプラス成長を持続

■ 住宅設備ほか：通期で影響が続く

生活関連商品	・衛生管理関連の商品需要は拡大基調が続く
建材 エンジニアリング	・建築需要の減少や工事計画の延期等の影響が続く

売上高要因分析(予想)

セグメント別 要因分析



主要製品別 分析

基礎化学品

▲67(億円)

製品	増減額(億円)
クロール・アルカリ	▲16
エピクロルヒドリン(EP)	▲23
その他	▲28

機能化学品

▲21(億円)

製品	増減額(億円)
合成樹脂・合成ゴム ※1	▲11
アリルエーテル類	▲9
医薬品関連 ※2	+3
その他	▲4

※1 合成樹脂・合成ゴム: ダップ樹脂、エピクロルヒドリンゴム等

※2 医薬品関連: 医薬品原薬・中間体、クロマト(医薬品精製材料)等

住宅設備ほか

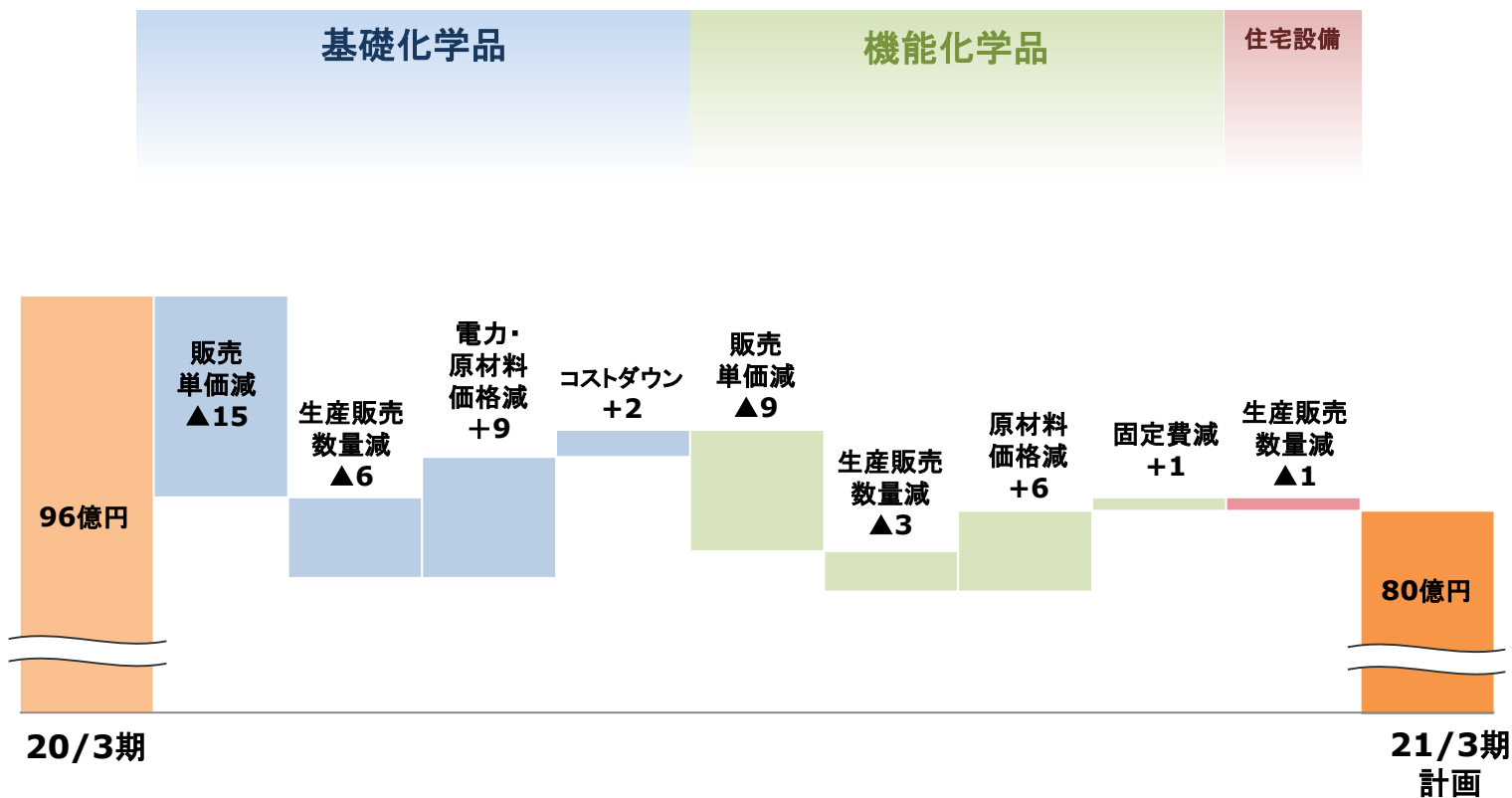
▲6(億円)

製品	増減額(億円)
建材、エンジニアリングほか	▲6

営業利益要因分析(予想)

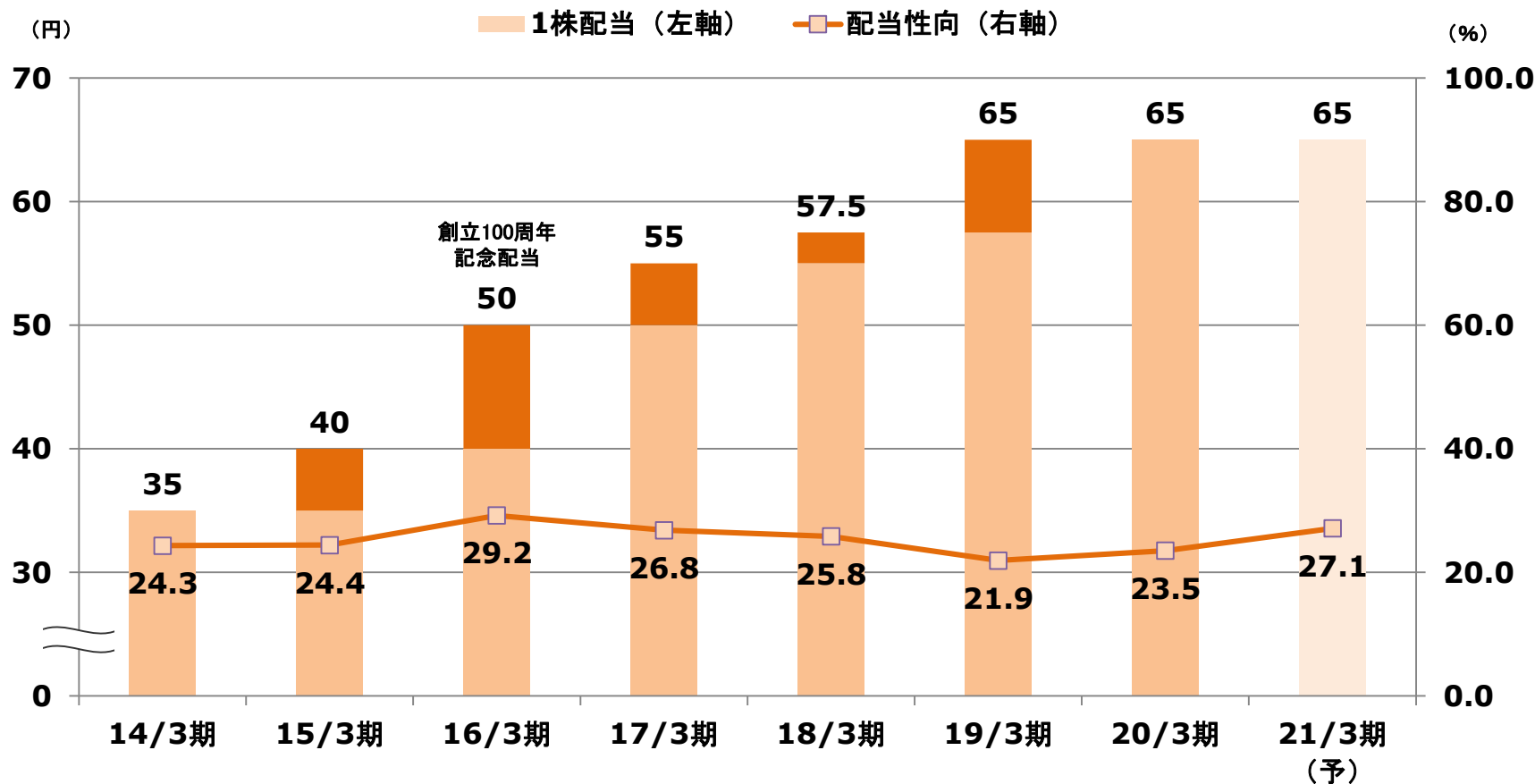
- 基礎化学品は原燃料価格減と効率的生産およびコストダウンにより減益幅を圧縮
- 機能化学品は医薬品関連事業がプラスに寄与するもセグメント全体では販売数量減による影響が残る

セグメント別 要因分析



株主還元

- 15/3期から19/3期まで増配を実施
- 安定配当を継続し、年間65円を予定



※18/3期以前の1株配当は、2017年10月の株式併合後の数値に換算して記載。

中期経営計画「BRIGHT-2020」進捗

中計「BRIGHT-2020」進捗

新成長エンジンの創出

- 本中計期間に高耐熱アクリルゴム「ラクレスター」の上市に成功、収益に貢献
- 超高耐熱グレードの顧客評価が順調に進み、今年度中に立ち上げ予定
- ノンフタレート型アリル樹脂「ラドパー」は本格的な販売を開始

海外収益基盤の確立

- ファンド出資による北米でのスペシャリティケミカル事業拡大(2020年2月リリース)
 - 米国での先端材料産業への進出に向けた新たな取り組み
 - 当社GNT製品の事業拡大を推進

事業構造改革の完遂

- 当社小倉工場、三菱ケミカル株式会社福岡事業所 かせいソーダ製造設備統合基本合意(2020年1月リリース)
 - * 設備統合は2021年11月予定
 - 生産合理化によるコスト競争力の強化
 - 九州地区でのクロール・アルカリ事業拡大

お問合せ先 株式会社 大阪ソーダ

管理本部 広報部

TEL : 06-6110-1560

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではありませんのでご了承ください。